

Title	病院看護師を対象とした職業としての看護の魅力に関する質問紙調査
Author(s)	井元, 彩; 大村, 優華; 辻本, 朋美 他
Citation	大阪大学看護学雑誌. 2023, 29(1), p. 9-16
Version Type	VoR
URL	<a href="https://doi.org/10.18910/90026">https://doi.org/10.18910/90026</a>
rights	©大阪大学大学院医学系研究科保健学専攻
Note	

*Osaka University Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

# 病院看護師を対象とした職業としての看護の魅力に関する質問紙調査

## Questionnaire Survey of Hospital Nurses on the Attractiveness of Nursing as a Profession

井元彩<sup>1)</sup>・大村優華<sup>2)3)</sup>・辻本朋美<sup>4)</sup>・井上智子<sup>4)</sup>  
 Aya Imoto<sup>1)</sup>, Yuka Omura<sup>2) 3)</sup>, Tomomi Tsujimoto<sup>4)</sup>, Tomoko Inoue<sup>4)</sup>

### 要 旨

少子高齢社会における看護提供体制を維持するためには、看護職の就業継続が不可欠である。看護師がいきいきと働き続けられる方策を検討するため、看護師の認識する職業としての看護の魅力に関する質問紙を作成し、2019年12月から2020年2月にかけて、近畿圏内3病院に勤務する看護師393人を対象に、無記名自記式質問紙調査を実施した。質問項目は「看護師が魅力を感じた看護実践場面」と「看護師の職業的魅力」に関する計40項目であり、6段階のリッカート尺度にて回答を求めた。分析対象は267件で、対象者の平均年齢は39.0±11.9歳、平均経験年数は14.2±10.4年であった。「患者回復に役立つ実感をもてたとき」「患者に心動かされる体験をしたとき」や「患者の不意の笑顔をみたとき」など、多くの看護実践場面で看護師は魅力を感じていた。また、看護師の職業的魅力についても「他職種と協働する」「知識・技術が深まる」ことを魅力として認識していた。

キーワード：看護師、看護の魅力、質問紙調査

Keywords : nurse, attractiveness of nursing, questionnaire

## I. 緒言

少子高齢化社会における看護提供体制を維持するためには、看護職の就業継続が不可欠である。就業継続に影響する要因として、仕事へのやりがい<sup>1)</sup>、意欲<sup>2)</sup>、満足<sup>3)</sup>といった、仕事に対する肯定的な認識があげられる。2021年日本看護協会が発表した「就業継続が可能な看護職の働き方の提案」の中では、「すべての看護職個人が健康で安全に専門職としてのやりがいを持って働き続けられる」持続可能な働き方の実現を目指している<sup>4)</sup>。

看護職の職業に対する肯定的な認識の一つとして「看護のもつ職業的魅力」がある。柴田らは看護の職業的魅力を「仕事のよい点や心惹かれる特性」と定義し<sup>5)</sup>、山田らによれば、看護の魅力とは、看護を仕事として継続することによって得られる、仕事に対する自信や自己成長への意欲など多様な価値をもつもの<sup>6)</sup>としている。他にも看護の魅力に関するインタビュー調査により、精神科看護や小児看護において、患者、家族とのコミ

ュニケーション<sup>7) 8)</sup> や、相互作用<sup>9) 10)</sup> に対して魅力を感じることが明らかとなっている。また、社会人経験のある看護師を対象とした研究では、看護師の職業的魅力を感じることが、就業継続につながる可能性があると明らかになっている<sup>5)</sup>。しかしながら、これまでの研究は単一の属性を持つ看護師を対象としたインタビュー調査にとどまり、多くの看護師を対象に定量的に魅力の実態を調査した研究はみられない。

本研究の目的は、医療現場で働く看護師の認識する、職業としての看護の魅力の実態を調査し、看護師がいきいきと働き続けられる方策を検討するための示唆を得ることである。

## II. 研究方法

### 1. 用語の定義

職業としての看護の魅力とは、看護師が認識する看護の仕事内容や特性と、それに対して感じている魅力、および、仕事を通して経験される具体的な体験と、そこから生じる肯定的な感情とした。

<sup>1)</sup> 元大阪大学大学院医学系研究科保健学専攻、<sup>2)</sup> 大阪大学国際医工情報センター、<sup>3)</sup> 滋慶医療科学大学大学院、

<sup>4)</sup> 大阪大学大学院医学系研究科保健学専攻

<sup>1)</sup> Former Osaka University Graduate School of Medicine, Division of Health Sciences, <sup>2)</sup> Osaka University Global Center for Medical Engineering and Informatics, <sup>3)</sup> Jikei University of Health Care Sciences, <sup>4)</sup> Osaka University Graduate School of Medicine, Division of Health Sciences

現在勤務している職場の労働条件（収入、勤務時間数等）や労働環境（人間関係、労働負荷量等）に対する魅力は含まないとした。

## 2. 調査方法

2019年12月から2020年2月にかけて無記名自記式質問紙調査を行った。対象施設は、研究者の所属する施設の近隣に位置する200～300床規模の急性期病棟や地域包括ケア病棟等を有する一般病院のうち、研究同意の得られた3病院とし、そこに勤務する管理的立場ではない看護師・准看護師393人を調査対象とした。3病院の看護部長に対し、それぞれ研究者が口頭と文書で研究内容を説明し、研究協力の了承を得た。看護部長から各部署の看護師長を通じて、対象者に調査票を配布した。回答後の調査票は厳封後、各病棟に設置した回収袋に投函するよう対象者に依頼した。回収袋は1か月間病棟に設置後、看護師長が回収袋に封をして看護部長室内の指定場所に持ち込み、後日、研究者が指定場所から回収した。

## 3. 調査票の作成

医学中央雑誌 ver.5、CiNiiを用いて1995～2019年に発表された国内の文献を対象に、キーワードを(看護 and 魅力) not (介護 or 学生 or 教育 or 魅力ある職場)として検索した。その結果、医学中央雑誌71件、CiNii53件の文献が抽出され、重複文献と臨床経験のない看護学生を対象とした文献等を除き、33件に絞り込んだ。さらに、職場の労働条件（収入、勤務時間数等）や労働環境（人間関係、労働負荷量等）に対する魅力に関する文献を除外し、看護師が、自ら看護の仕事の魅力について語っている内容を記述した研究16件を抽出した。16件の内訳は、精神看護領域8件<sup>7) 8) 11) -16)</sup>、小児看護領域2件<sup>9) 10)</sup>、血液内科疾患看護1件<sup>17)</sup>、手術室看護1件<sup>18)</sup>など診療科特有の看護の魅力についての研究と、地域基盤型診療所で勤務する看護師を対象にした研究1件<sup>19)</sup>、社会人経験のある看護師を対象にした研究2件<sup>5) 20)</sup>、40～60歳未満のキャリア後期看護師を対象にした研究1件<sup>21)</sup>であった。

対象となった16文献から、「看護師が魅力を感じた看護実践場面や看護師という職業的魅力」に関する125項目を作成した。そして、類似した内容を示す項目同士を統合すると27項目となり、その上で1つの項目の中に複数の内容が含まれ

る場合には項目を分解し、最終的に40項目とした。それらを「看護師が魅力を感じた看護実践場面」「看護師の職業的魅力」の2つに大別した(表1, 2)。「看護師が魅力を感じた看護実践場面」の教示文は「仕事に関連して次のような経験をしたときにどの程度の魅力を感じますか?」とし、「強く感じる」～「全く感じない」の6段階で回答を求め、「強く感じる」「感じる」「やや感じる」を肯定回答とした。なお、質問項目の内容に関する経験がない場合は「経験なし」を選択してもらった。「看護師の職業的魅力」の教示文は「あなたが仕事に対して感じること、思うことをお聞かせください」とし、「強く思う」～「全く思わない」の6段階で回答を求め、「強く思う」「思う」「やや思う」を肯定回答とした。

さらに個人属性として、年齢、看護職としての経験年数等の項目を加えて調査票を作成し、看護師としての臨床経験を有する7人の看護研究者に回答してもらい、回答方法や文言について一部修正を加えたのち調査票の完成とした。

## 4. 倫理的配慮

本研究は、大阪大学医学部附属病院観察研究倫理審査委員会の承認を得て行った(承認番号19275)。調査票に回答の匿名性、自由意思による参加、個人情報保護等に関する説明を記載し、調査への同意欄にチェックがあった調査票のみ、分析対象とした。

## Ⅲ. 結果

対象者393人に調査票を配布し、316件(回収率80.4%)の回答を得た。そのうち、調査への同意欄にチェックがない49件を除外した267件を分析対象とした。また、「経験なし」の回答数は質問項目ごとに異なるため、有効回答数は質問項目ごとに決定した(表1, 2)。

### 1. 対象者の個人属性

対象者の平均年齢は39.0±11.9歳、平均経験年数は14.2±10.4年であった。他の職場での看護職経験がある対象者は210人(78.7%)、看護職以外の職務経験がある対象者は87人(30.8%)であった。

### 2. 看護師が魅力を感じた看護実践場面(図1)

看護実践における魅力は、質問項目にあげた20場面のうち、9場面において肯定回答は90%以上

表1 看護師が魅力を感じた看護実践場面に関する質問項目と有効回答 (人)

質問	有効回答	経験なし	欠損
1 偶然に、患者の特技や個性に気づいたとき	252	13	2
2 患者の一言に、深い意味が込められていると気づいたとき	259	7	1
3 患者との関わりから、自分の見方や考え方が変化していくと感じたとき	255	10	2
4 偶然に、対応が難しい患者と自分の共通点あるいは共感できることに気づいたとき	236	30	1
5 忘れられない患者との出会いや、患者との出来事によって心を動かされたとき	257	9	1
6 患者と家族がお互いを思いやる雰囲気を感じたとき	257	9	1
7 患者の家族が、自分の患者への援助に満足していると感じたとき	257	8	2
8 患者が、人に知らせていない個人的な話を打ち明けてくれたとき	258	9	0
9 めったに笑わない患者が、不意に笑顔になったとき	259	6	2
10 患者が、清潔ケア (シャワー浴や口腔ケア等) によって、さっぱりした表情になったとき	264	3	0
11 自分の行った援助が、患者がよい状態に向かうのに役立ったと感じたとき	259	7	1
12 患者のことについて、他職種 (医師やコメディカルスタッフ等) と話し合うことができたとき	261	6	0
13 他職種とのコミュニケーションから、思わぬ情報やアイデアが得られたとき	260	7	0
14 自分の看護師としての能力を同僚や他職種から評価されたとき	259	8	0
15 同僚の業務を手助けして、感謝されたとき	266	1	0
16 同僚がいまいきいきと、楽しそうに働いている姿を見て、自分も活力が出てきたとき	250	13	4
17 患者の急変などがあつた際、その他の業務を調整し、適切に対応できたとき	245	20	2
18 自分にとつとて難しい手技や技術が、スムーズにできたとき	264	3	0
19 患者のちよつとした変化や状態変化のサインに気づき、報告などの対応ができたとき	266	1	0
20 自分のアセスメントや提案が、患者の治療やケアの方針に反映されたとき	254	13	0

表2 看護師の職業的魅力に関する質問項目と有効回答 (人)

質問	有効回答	経験なし	欠損
21 看護の仕事は、毎日受け持つ患者や仕事内容が変わるため、飽きずに働けると思う。	267		0
22 看護の仕事は、患者によつて関わり方を変える必要があるため、飽きずに働けると思う。	267		0
23 看護の仕事は、病態生理や治療等についての知識が増えるので楽しいと思う。	267		0
24 看護の仕事は、経験を積むほどに知識や技術が深まると思う。	267		0
25 看護の仕事は、他の専門職 (医師やコメディカルスタッフ等) と協働する仕事だと思ふ。	267		0
26 看護の仕事は、患者にとつとてよりよい方向に向かう手助けをする仕事だと思ふ。	267		0
27 看護の仕事は、日常生活では出会えなかつた患者や家族との関わりを持つ。	267		0
28 判断に迷つたときに、同僚に相談できることは心強いと思ふ。	267		0
29 看護の仕事で得た、診療科特有の知識や経験は、今後、異なる診療科で働く際にも活かせると思ふ。	267		0
30 看護の仕事で得た知識や経験は、幅広いキャリア選択を可能にすると思ふ。	267		0
31 看護の仕事で得た知識や経験によつて、自分の健康状態がよくわかるようになると思ふ。	267		0
32 看護の仕事で得た知識や経験は、今後、職場以外での看病・介護・子育て等に活かせると思ふ。	267		0
33 看護の仕事で得たコミュニケーションスキルは、日常生活でも役に立つと思ふ。	267		0
34 看護の知識や経験があることで、家族など周囲の人に頼られていると思ふ。	267		0
35 看護師として働いていることは、家族や友人からよい評価を受けていると思ふ。	266		1
36 職場以外での看病・介護・子育て等の経験は、今後の看護の仕事に活かせると思ふ。	267		0
37 自分の考えに促つて判断し、対応できることにやりがいを感じる。	266		1
38 仕事を始めると、徐々に活力が出てくる気がする。	267		0
39 看護の仕事を通じて、自分の自信につながっていると感じる。	267		0
40 私の性格は、どちらかというと看護師に向いていると思ふ。	266		1



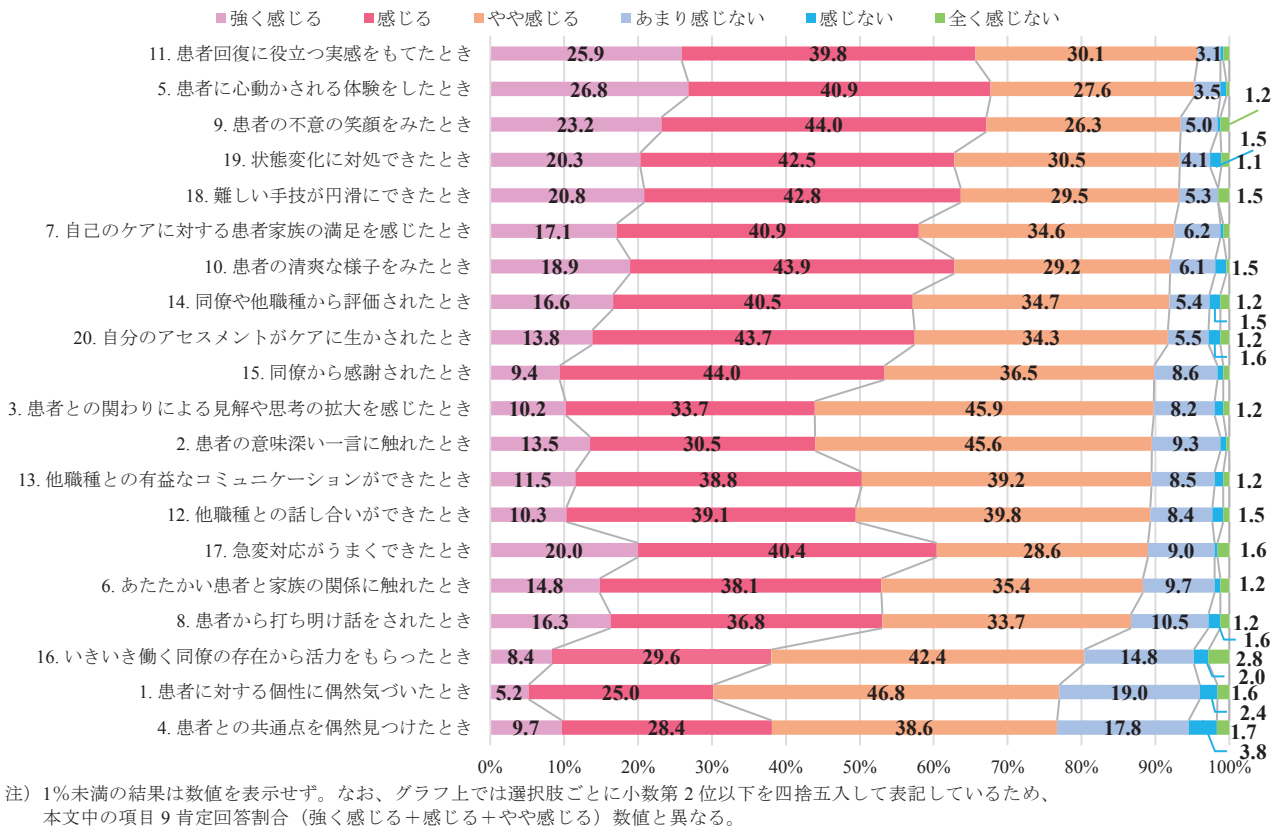


図1 看護師が魅力を感じた看護実践場面

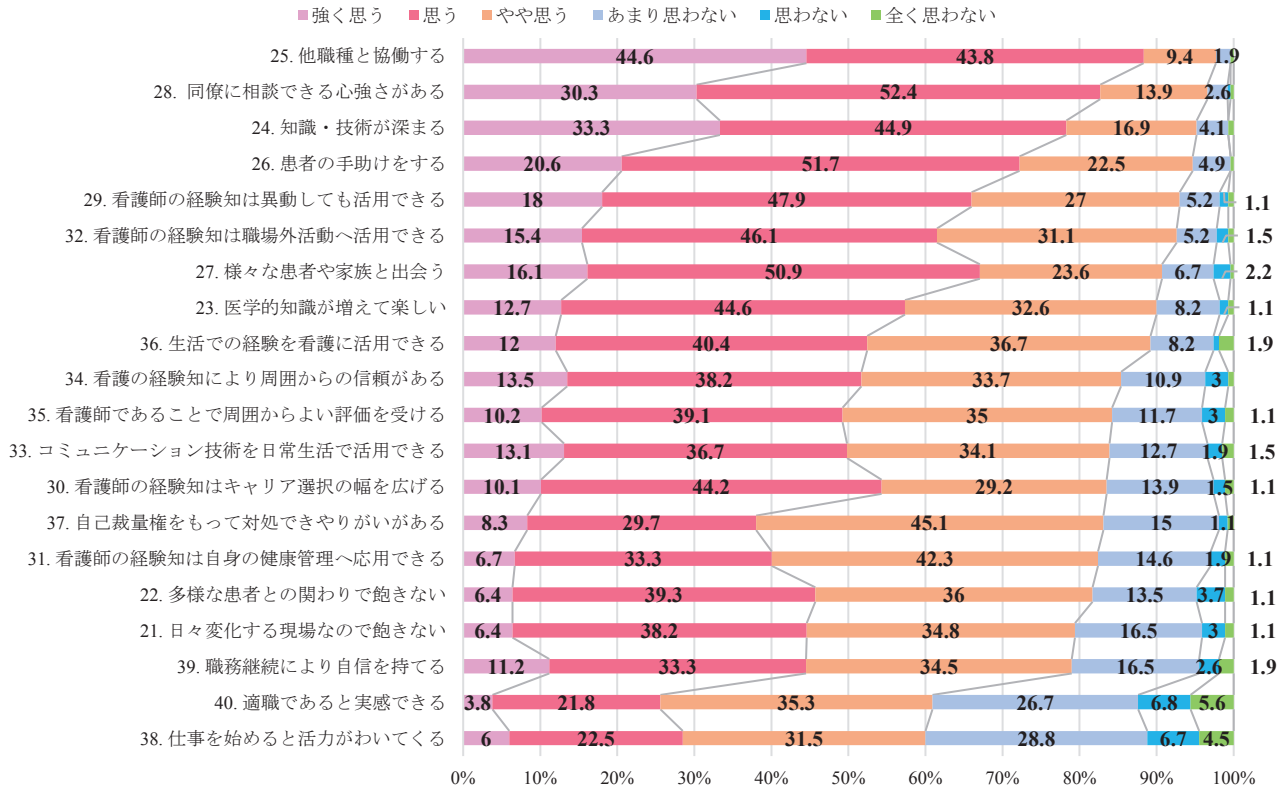
であり、18 場面において、80%以上であった。特に、「11. 患者回復に役立つ実感をもてたとき (95.8%)」に最も多くの対象者が魅力を感じていた。続いて、「5. 患者に心動かされる体験をしたとき (95.3%)」と「9. 患者の不意の笑顔を見たとき (93.4%)」であった。なお、「4. 患者との共通点を偶然見つけたとき」と「17. 急変対応がうまくできたとき」は「経験なし」が 20 人を超えていたが、他の項目は 1~13 人の範囲であった(表 1)。

### 3. 看護師の職業的魅力 (図 2)

看護師という職業への魅力は、20 項目中 7 項目において、肯定回答は 90%以上であり、特に「25. 他職種と協働する (97.8%)」ことや「28. 同僚に相談できる心強さがある (96.6%)」ことを魅力として認識していた。続いて、「24. 知識・技術が深まる (95.1%)」「26. 患者の手助けをする (94.8%)」「29. 看護師の経験知は異動しても活用できる (92.9%)」「32. 看護師の経験知は職場外活動へ活用できる (92.8%)」であった。

## IV. 考察

看護実践場面では、質問項目にあげた 20 場面の半数近くにおいて、対象者は魅力を感じていた。患者の回復に役立つと実感できたときには 95%以上が魅力を感じており、忘れられない患者との出会いや患者に心動かされる体験など、患者との関わりを通して得られた感動に対して、多くの対象者が魅力を感じていた。特に、心を動かされる体験については、20 項目の中で最も多い 26.8%が魅力を「強く感じる」と回答していた。看護師は、見えなかった患者の一面や内面を知ったり、患者の変化に気づけたりすることで、看護観の広がりや成長を実感し、実践への自信や楽しさを感じるといわれている<sup>13)</sup>。多忙な職場ではあるが、看護師がひとりひとりの患者や患者とのコミュニケーションを大切にして日々の看護実践を行い、そのかけがえのない経験を他者と共有し、個々に反芻する部署での取り組みや管理者からの働きかけなど、看護師自身が看護の魅力を確認できる機会を多く持てるような環境作りが望まれる。



注) 1%未満の結果は数値を表示せず。なお、グラフ上では選択肢ごとに小数第2位以下を四捨五入して表記しているため、本文中の項目29肯定回答割合(強く感じる+感じる+やや感じる)数値と異なる。

図2 看護師の職業的魅力

看護師の職業的魅力についても多くの対象者が認識していた。特に、他の専門職と協働する仕事であることや、判断に迷ったときに同僚に相談できる心強さがあることを魅力として認識していた。医療は患者を中心として多くの職種が連携しており、中でも看護師は、そのチームをコーディネートする力を求められている<sup>22)</sup>。対象者はその役割を自覚し、他の専門職との積極的な協働を実践することに魅力を感じていた。さらに、看護の仕事が続いていることで得られる知識や技術、看護師としての経験知が、部署異動後や職場外でも活用できることに対する魅力も感じており、看護師という職業を継続することでもたらされる発展的価値を評価していることが、うかがえた。また、看護師は患者の手助けをする仕事であるとの認識に対し95%の対象者が肯定しており、医療現場で働く看護師は、患者を最優先に考えたケアを提供することを職務とし、それに対する強い魅力を感じていた。柴田らは、看護の奥深さを形成するひとつとして、常によりよい看護を追求するという利益に関係なく人助けをする高い道徳性をあげており<sup>5)</sup>、看護師は患者により効果が

もたらされると実感できたときに、強い魅力を感じると考えられる。一方で、看護師という職業を適職だと実感できると回答した割合は60%程度で、「全くそう思わない」との回答も15人(5.6%)みられた。看護師の職業的魅力を感じつつも、自身の特性や資質が看護師の仕事には適していないと感じている対象者の存在が明らかとなった。就業継続という観点から考えると、この結果は看過できない。多くの看護実践場面や看護師という職業への魅力を感じながらも、適職ではないと認識するに至った理由については、今後の研究が必要である。

### V. 研究の限界と今後の展望

本研究は、先行研究をもとに著者らが作成した質問項目を用いて、看護師が認識する職業としての看護の魅力の実態を明らかにした。しかし、本研究には3つの点で限界がある。まず、本研究は質問紙調査であるため、質問項目に含まれなかった魅力については測定できていない点、そして、「11. 患者回復に役立つ実感をもてたとき」等のいくつかの項目で「感じない」「全く感じない」の

否定の回答が1%に満たず、結果の度数分布が大きく肯定回答に偏るなど、回答の選択肢が適切でなかった点、3つ目は、対象者が3病院の看護師・准看護師に限定されており、本研究結果を一般化するには不十分な対象選定であった点である。今後は、これらの限界を踏まえ、回答の選択肢や質問の文言を検討して調査票を洗練させた上で、調査対象を拡大して実施する。最終的には、看護師が質問に回答することによって看護の魅力を再認識し、看護師の職業に対する肯定的な認識を高められる尺度の開発について検討する。

## VI. 結論

医療現場で働く看護師・准看護師を対象に、職業としての看護の魅力について質問紙調査を行った。その結果、看護実践における患者との関わりからうまれる感動や、同僚や他職種と協働する職業特性に、多くの看護師・准看護師が職業的魅力を認識していた。

## 利益相反

本研究に開示すべき COI 状態はない。

## 引用文献

- 1) 中野沙織, 岩佐幸恵 (2019) : 中堅看護師の職業継続に関する文献検討「離職」と「職業継続」の理由に焦点をあてて, *The Journal of Nursing Investigation*, 16 (1-2), 10-22.
- 2) 山田智子 (2018) : 女性中堅看護師の仕事意欲と看護実践能力および個人属性の関連性, *広島国際大学看護学ジャーナル*, 15 (1), 17-29.
- 3) 加藤栄子, 尾崎フサ子 (2011) : 中堅看護職者の職務継続意志と職務満足及び燃え尽きに対する関連要因の検討, *日本看護管理学会誌*, 15 (1), 47-56.
- 4) 公益社団法人 日本看護協会 (2021) : 就業継続が可能な看護職の働き方の提案, 3-4. [https://www.nurse.or.jp/nursing/shuroanzen/hataarakikata/pdf/wsr\\_fornurse.pdf](https://www.nurse.or.jp/nursing/shuroanzen/hataarakikata/pdf/wsr_fornurse.pdf) (検索日: 2022年6月19日)
- 5) 柴田佳純, 大村優華, 山上優紀, 北田裕香, 辻本朋美, 飯田恵, 井上智子 (2020) : 社会人経験のある看護師の語りからみえた職業継続につながる看護師の職業的魅力, *日本看護科学学会誌*, 40, 332-339.
- 6) 山田早苗 (2002) : 看護職を継続する意志を構成する要因--看護の魅力について, *看護教育研究集録 看護教育学科 看護教員養成課程*, 28, 57-64.
- 7) 友安英喜, 藤田志穂, 泉真貴子, 重田かおる, 巻幡幸秀 (2015) : 精神科看護師の就労意識に対するアンケート調査 あなたが精神科看護師になる前に戻ることができたら, *日本精神科看護学術集会誌*, 58 (2), 161-165.
- 8) 大永慶子, 橋山貴志 (2017) : 精神科病棟で働く看護師がとらえる精神科看護の魅力, *国立病院看護研究学会誌*, 13, 24-31.
- 9) 鈴木優子, 佐鹿孝子 (2016) : 小児看護を実践する看護師が実践を継続する過程: 中堅看護師への面接から看護師の意思の変化に焦点をあてて, *日本小児看護学会誌*, 25, 74-80.
- 10) 関根正, 内田正樹, 木村共美, 藤倉美佳, 木村きよ子, 大館太郎 (2012) : 児童思春期病棟に勤務する看護師の看護に関する意識, *群馬県立県民健康科学大学紀要*, 7, 63-74.
- 11) 藤本瞳, 久川亨, 角田英治, 木村共美, 茂木百合子, 佐藤敦子, 江口圭一 (2019) : 公立 A 精神科病院看護師の職務満足とキャリア継続意志との関連, *日本看護学会論文集, 看護管理*, 49, 115-118.
- 12) 西村紗和, 難波章子, 地本勲 (2018) : 精神科看護師のやりがい・魅力に関するインタビュー調査 陰性感情の乗り越え方に焦点をあてて, *日本精神科看護学術集会誌*, 61, 26-27.
- 13) 酒井美子, 竹渕由恵, 関根正 (2013) : 精神科看護の魅力 A 県内の精神科看護師への自由記述式アンケートより, *日本精神科看護学術集会誌*, 56, 306-310.
- 14) 石原尚子, 森植恵, 宮岡千種 (2012) : 精神科看護の魅力 ベテランナースへのインタビューを通して, *日本精神科看護学術集会誌*, 55, 388-389.
- 15) 木村美智子, 杉山敏宏, 國方弘子, 片岡三佳, 谷岡哲也 (2011) : 長期入院の精神障害者の退院支援に関わる精神科看護の魅力, *The Journal of Nursing Investigation*, 9, 39-43.
- 16) 木村美智子 (2014) : 精神科慢性期病棟における看護師が認知する看護ケアの魅力とその構成概念, *日本精神保健看護学会誌*, 23, 61-69.

- 17) 村田香織, 城丸瑞恵, 仲田みぎわ (2017) : 造  
血器腫瘍患者・家族をケアする看護師が感じ  
る困難と対処 中堅看護師のインタビュー  
から, 北日本看護学会誌, 20, 1-11
- 18) 吉田和美 (2012) : 手術室看護師が経験して  
いる手術室看護の魅力, 日本赤十字看護学  
会誌, 12 (1) 27-35.
- 19) 今藤潤子, 大西弘高, グライナー智恵子  
(2014) : 地域基盤型診療所看護師が看護実  
践を行ううえでの肯定的要素, 日本プライ  
マリ・ケア連合学会誌, 37, 10-15
- 20) 山田和美, 川端洋子, 石田一美 (2015) : 社会  
人経験のある看護師が語る看護の魅力, 日  
本看護学会論文集 看護管理, 45, 378-381.
- 21) 石井邦子, 川城由紀子, 大滝千智, 川村紀子,  
鳥田美紀代 (2018) : キャリア後期看護職の  
セカンドキャリアに関する意向と関連要因.  
千葉県立保健医療大学紀要, 9, 3-10.
- 22) 岡崎美晴, 江口秀子, 吾妻知美, 神谷美紀子,  
遠藤圭子, 服部兼敏 (2014) : チーム医療を実  
践している看護師が多職種と連携・協働する  
上で大切にしている行為, 甲南女子大学研  
究紀要, 看護学・リハビリテーション学編, 8,  
1-11.



## **Questionnaire Survey of Hospital Nurses on the Attractiveness of Nursing as a Profession**

Aya Imoto, Yuka Omura, Tomomi Tsujimoto, Tomoko Inoue

### **Abstract**

In an aging society with a declining birth rate, it is essential to maintain the nursing service provision system by preventing nurses from leaving the nursing profession. To examine the measures of enabling nurses to work with vigor and enthusiasm and continue in the nursing profession, we decided to design a questionnaire regarding nurses' perceptions of the attractiveness of nursing as a profession. The respondents of the anonymous, self-administered survey from December 2019 to February 2020 included 393 nurses working at three hospitals in Osaka. The questionnaire included a total of 40-item questions related to "Practical Nursing Situations that Attracted Nurses" and "Professional Attractiveness of Nurses," which were answered by the nurse respondents on a 6-point Likert scale. The mean age of the respondents was  $39.0 \pm 11.9$  years old, and the mean year of experience was  $14.2 \pm 10.4$  years. It was found out that nurses felt attracted to nursing as a profession in many nursing practice situations such as "when they felt they helped patients recover," "when they were moved by what patients said or did," and "when they saw patients smile." Furthermore, it was also found out that they were recognized "being able to collaborate with other professions" and "improving their own knowledge and skills" as an attractiveness of nursing as a profession.

Keywords : nurse, attractiveness of nursing, questionnaire